

## 高齢者福祉 2つの現場から

福祉局医療援助課

小山 敬之

「皆さんの話相手をしてください」

私が事務員として老人ホームに就職したばかりの時、最初に指示されたことだった。「皆さん」とはもちろん、そこで生活するお年寄りの方達。それまで福祉の仕事の経験もなく、祖父母が早くに亡くなりお年寄りと接した経験も少ない私は、あろうことかどのように接すればいいのか分からなかったのだ。ただ立ち尽くすだけで何もできなかった。

仕事に慣れた頃、その原因に気付いた。「どのように接するか」なんて決まりはない。なにかから分かっていく。当然だっ

た。お年寄りの方達は、特別なことをしてほしい訳ではない。ごくありふれた会話―天気の話や好きな食べ物の話―そして手助けが必要な方には手助けをする。それらは何も福祉に関する特別な知識、技術が必要なことではなく、私達の日常の中でも見られる光景。老人ホームで生活するお年寄りの中には、当然身体が不自由な方も多くいらつしやるが、その方達に対してもただ人として当たり前の手助けを当たり前にすればいいのだと知った。福祉という職業を特別視するあまり基本的なことを忘れていた。それに気付かせてくれたのは、他でもないお年寄りの方達。私のつたない会話にもぎこちない食事介助にも嫌な顔ひとつせず、ただただ感謝してくれた。「いつもどうもありがとう」とう「そう言われる度に私は自分の行動に自信を持つことができ、逆にこちらが感謝したのもだった。

さて、このような前職の経験を経て、私は福祉局に配属された。老人医療の担当課だ。老人医療とは70歳以上の高齢者の医療費を給付する制度だが、この制度の対象者は「老人医療受給者証」という証を病院にかかるときに出す。ふと、前職でお年寄りを病院に連れていったときに大事そうに持っていた白い紙を思い出した。なるほど！前職の経験がなければ私はただ淡々と仕事をこなすだけだったかも知れない。しかしその経験があるおかげで、受給者証ひいては老人医療という制度がお年寄りにとっていかに大事か、そしてその担当者たる自分はいかに大きな責任を負っているかを感じる事ができるのだと思う。責任ある仕事とはそれだけで大きなやりがいだ。また、一個人と行政というまったく逆の立場に立ち、制度がどのように運用されているのかを見ることができ、私は公務員としての第一歩を福祉に関わることで踏み出せたことをありがたいと思うのだ。

最後に、私の仕事の励みになっっている印象的な言葉を紹介したい。4月の新採用職員研修で知的障害者の授産施設に実習に行った際にその職員の方にいただいた言葉だ。

「障害が障害と見られなくなるのが理想です。そのためには人の意識を変えること、今ある状況を当たり前と思わずによりよい方向へと変えていくことです。それは非常に困難なことです。それができるのは行政を司るあなたたちです。すべての障害を持った方が不自由なく働けるような、そんな世の中にしていくのを期待しています」

### あとがき

今から55年前の1947年、WHOは健康について次のように宣言しました。「健康とは、身体的にも精神的にも社会的にも完全に良好な状態をいい、単に病気がないとか病弱でないということではない」

この健康概念には、身体的健康はもとより、精神的健康、社会的健康が入って、従来の健康概念を変えた画期的なものでした。

私達は今、身体的健康、精神的健康、社会的健康を手に入れているのでしょうか。国民医療費はうなぎ上りの状態が続き、心の病を抱える人は増え続け、自殺者が3万人を超える社会に生きています。

人口340万人を越す巨大都市横浜に暮らす私達は、もう一度健康を考え直し、歴史を、現状を見つめなおしてみる必要があると思います。

ちようど横浜市も「健康横浜21」を策定し、市民に訴えかけることでした。市民の健康づくり、心の健康、緩和ケア・ホスピス、葬祭も含めて健康を考え直しました。それぞれの分野で長年考え抜かれてきた人達に

執筆を引き受けていただき、中身の濃いものができあがり、感謝しております。

人間は本来、体のバランスが崩れると元に戻そうとする力を持っています。これを恒常性維持機能（ホメオスタシス）と呼んでいます。

この機能は人間だけでなく、自然も社会ももっていると思います。この力が発揮できるように私達は、体にも自然にも、社会にも働きかけていく必要があります。日々の努力が必要だと思います。こうしてWHOの呼びかけに、やっと思えるののかも知れません。

〈加藤〉

「調査季報」は職員が自由に意見を発表し討論する行政研究誌です。「自主研究レポート」への投稿をお待ちしています。

応募される方は、事前に研究の概要をA4紙3枚以内にとめて企画局政策部調査課までお送りください。

お問い合わせは、  
FAX 663-4613  
お電話 671-2029

## ●第145号(二〇〇一年三月)

## 特集・都市生活と動物

- 1 人と動物の関係を考える ——— 林 良博
  - 2 肉食文化と生命尊重 ―日本における肉食の歴史と人権の視点から― ——— 吉田拓郎
  - 3 横浜の動物園 ——— 堀 浩
  - ①ズーラシアのめざしたもの ——— 堀 浩
  - ②ズーラシアの役割・活動 ——— 紺野康文・河合正嗣・大坂 豊・市川典良
  - ③横浜動物の森公園・よこはま動物園の建設事業について ——— 吉田哲夫・松寄尚紀
  - ④これからの動物園を思う ——— 石原敏明
  - 4 都市生活とペット ——— 渡辺洋一
  - ①横浜市の動物関係行政 ——— 渡辺洋一
  - ②地域猫の誕生―磯子区猫の飼育ガイドライン推進協議会の活動― ——— 小柳充子
  - ③西区の動物介在活動支援事業 ——— 露崎隆司・笹野哲雄
  - ④白朋苑の動物介在活動(ワンワンクラブ) ——— 阿部富美子・荒牧健夫・加藤一則
  - ⑤「あなた」と「猫」と「世の中」と ——— 太田成江
  - ⑥集合住宅とペット飼育 ——— 井本史夫
  - ⑦学校飼育動物 ——— 鳥居正夫
- 新鮮力/動物園に来て、感じてほしいこと ——— 小野香織

## ●第146号(二〇〇一年六月)

## 特集・循環型社会システムの構築に向けて

- 1 循環型社会へのパラダイムシフト ——— 植田和弘・ハインタビューV
  - 2 大量廃棄社会の限界と循環型社会への展望 ——— 細田衛士・ハインタビューV
  - 3 横浜市の廃棄物処理の現状と循環型社会の形成 ——— 青木恵子・永木宏一郎
  - ①一般廃棄物をめぐる現状と横浜市の処理計画
  - ②横浜市ごみ減量化アクションプログラムの策定 ——— 石川美枝子
  - ③循環型社会システムを考える―ペットボトルのリサイクルから― ——— 下田康晴
  - ④産業廃棄物を巡る課題と動向―横浜市における産業廃棄物行政― ——— 加藤郁三・関川朋樹
  - 4 市民のライフスタイルとリサイクル活動 ——— 松本安生
  - 5 事業所のごみ減量化・資源化への取り組み ——— 二見良之・岩本健一
  - ①事業系ごみの現状と課題 ——— 二見良之・岩本健一
  - ②キリンビール横浜工場のゼロエミッションの取り組み ——— 松沢幸一
  - ③松下通信の資源化・減量化の取り組み ——— 佐野正之
  - ④商業のごみ減量化・資源化への取り組み ——— 樋口泰雄
  - 6 リサイクル産業の動向 ——— 中野聰恭
  - ①循環型社会システムへ向けて第三のECO提案 ——— 中野聰恭
  - ②古紙のリサイクル―現状と課題― ——— 小塚敏文
  - 7 市の事業と循環型システム ——— 小塚敏文
  - ①二十一世紀の資源循環型ごみ処理施設―金沢工場の焼却灰溶融設備とごみ発電について― ——— 小山和夫・山中信幸・長谷部孝広
  - ②循環型社会への取り組みと下水道 ——— 重田 薫
  - ③自主研究レポート/公会計における企業会計的手法の検討 ——— 藤村英樹
- 新鮮力/人のために働く ——— 松本恵里子

## ●第147号(二〇〇一年九月)

## 特集・IT社会と横浜の戦略

- 1 IT化のもたらすもの ——— 坂口利裕
  - ①21世紀型IT生活 ——— 坂口利裕
  - ②IT時代の人間社会 ——— 額田順二
  - 2 横浜市のIT化への取り組み ——— 金子延康・大木将彰
  - ①横浜市のIT推進について ——— 金子延康・大木将彰
  - ②「ITを活かした都市づくり」提言について ——— 金子延康・桑波田一孝
  - ③電子自治体 ——— 佐倉康之
  - ④動き始める行政情報通信基地 ——— 山口健太郎
  - ⑤公共事業のIT化(CALS/E/C)について ——— 時岡大平
  - 3 横浜企業のIT戦略 ——— 永田紳一
  - ①関内・山下地区活性化の方向 ——— 永田紳一
  - ②市内中小企業のIT化の現状―中小企業IT化事例調査― ——— 森久保誠・深田泰彦
  - 4 市民生活へのIT戦略 ——— 武下哲郎
  - ①防災分野におけるIT化の進展 ——— 武下哲郎
  - ②消防行政のIT化 ——— 太田 孝
  - ③医療分野のIT化 ——— 古川政樹
  - ④学校教育における情報化施策について ——— 田島 裕
  - ⑤市営バス・地下鉄事業におけるIT活用―丸山由利子調査&政策研究/公共施設の長寿命化の推進―高橋和也
- 新鮮力/友人のこと ——— 上野龍一

---

# 調査季報

---

# 148

2002年2月

編集・発行

横浜市企画局政策部調査課

〒231-0017横浜市中区港町1-1

TEL.045-671-2029

2002年2月22日発行

横浜市広報印刷物登録

第1301285号

類別・分類A-BA011

デザイン サウスピア

印刷 株式会社ガリバー

ISSN0387-8899

この印刷物は再生紙（古紙混入率70%）を使用しています